

第104回新生ふくしま復興推進本部会議 議事録

- 日時：令和3年4月6日（火）10：40～10：50
- 場所：危機管理センター災害対策本部会議室（北庁舎2階）

【鈴木副知事】

それでは、新生ふくしま復興推進本部会議を開催いたします。

早速、議題「令和4年度 政府予算要望の進め方」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

今年度も8月末に政府の令和4年度の概算要求が予定されています。それに当たって、本県における「令和4年度政府予算要望の進め方（案）」について御説明させていただきます。資料1を御覧ください。

震災から10年が経過し、今年度から新たに「第2期復興・創生期間」がスタートいたしました。今後も長く続く復興への取組を加速していくため、新スローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」の下、継続する課題に対して切れ目なく着実に対応するとともに、今後、顕在化する新たな課題に対しては柔軟かつ大胆な施策に取り組む必要があります。

さらに、令和元年東日本台風や今年2月の福島県沖地震による甚大な被害、1年以上続いている新型コロナウイルス感染症への対応など、度重なる災害により復興が遅滞することがないように、並行して取り組まなければなりません。

「取組方針」の基本的な考え方を御覧ください。

第2期復興・創生期間の2年目においても、復興・創生の取組を切れ目なく着実に前進させるため、総合計画や復興計画等の推進に必要な予算の確保に努めてまいります。その際、廃炉の実現や原子力災害からの環境回復、風評払拭・風化防止等の解決まで時間を要する困難な課題に対しても、解決の道筋を示せるよう、施策の検討を進めてまいります。

政府予算要望の視点といたしましては、「原子力発電所事故への対応」、「避難地域・浜通りの復興再生」、「風評払拭・風化防止対策の強化」、「福島イノベーション・コースト構想の推進」、「ふくしま創生に向けた取組」の5つの視点を基に、新型コロナウイルス感染症については、今後の状況も踏まえた対応を求めることとし、本県の復興・創生に向けまして、今後、国の骨太の方針や与党の10次提言等、国のスケジュールをしっかりと見定めながら、また、昨年度一年間、新型コロナウイルス感染症の中で定着してきました新た

な生活様式を踏まえたオンラインによる折衝や対面折衝など、最も効果的に国に本県の実情が伝わるようなやり方をしっかり取り入れながら、これから国との協議を進めていきたいと思いをします。

【鈴木副知事】

それでは今の説明に関して、危機管理部。

【危機管理部長】

廃炉に向けた取組につきましては、安全を最優先に国が前面に立って取り組むよう求めるとともに、ALPS処理水の取扱いによって、本県の農林水産業や観光業に影響を与えることがないように、「トリチウムに関する正確な情報発信」と「具体的な風評対策の提示」に責任を持って取り組むよう求めてまいります。

また、令和3年2月13日に発生した福島県沖地震につきましては、災害救助予算の十分な確保と、県が行う被災住宅への支援に対する財政措置について求めてまいります。

【鈴木副知事】

避難地域復興局。

【避難地域復興局長】

避難地域の復興につきましては、避難解除地域の生活環境整備や、帰還困難区域における拠点整備などにより復興・再生を進めるとともに、避難者の帰還や生活再建の支援、さらには、移住・定住の促進、交流・関係人口の拡大等を推進するために必要な予算や施策についてしっかりと国に求めてまいります。

【鈴木副知事】

生活環境部。

【生活環境部長】

環境回復の取組について、特定復興再生拠点区域の除染等や中間貯蔵施設事業の安全な対応等、国が責任をもって確実に実施するよう求めてまいります。

また、「ふくしまグリーン復興構想」や地球温暖化対策等、環境省との協定に基づく未来志向の環境施策の更なる推進に向けて必要な予算措置を求めてま

います。

このほか、野生鳥獣対策や公共交通の確保等、県民生活の安定・向上を図るための予算措置を求めてまいります。

【鈴木副知事】

保健福祉部。

【保健福祉部長】

健康不安の解消、医療・介護の提供体制の整備など、被災者に寄り添った支援を継続していく必要があるため、十分な財源措置や制度となるよう求めてまいります。

加えて、県内の医療・介護人材の確保など、県民の保健医療福祉サービスの充実に必要な予算についても、引き続き求めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染症対策につきましては、包括支援交付金の確実な予算措置及び適用範囲の拡大など、柔軟な対応を国に求めてまいります。

【鈴木副知事】

商工労働部。

【商工労働部長】

ウィズコロナを見据えた、県内中小企業の振興や雇用の確保等について、必要な予算を確保してまいります。

特に、被災12市町村の事業・生業の再生を始め、福島イノベーション・コースト構想の具体化に向け、福島ロボットテストフィールドの運営や、再生可能エネルギー、医療関連産業等、次世代産業の集積や振興に、必要な予算の確保を求めてまいります。

【鈴木副知事】

農林水産部。

【農林水産部長】

避難地域等における営農再開の進展具合に差があるなど、農林水産業の復興は、いまだ途上にあることから、営農再開の更なる加速化や森林の整備、漁業の操業拡大に向けた予算の確保に努めてまいります。

また、根強い風評払拭に向けた生産から流通・消費各段階における総合的な対策や産地競争力の強化、高付加価値産地展開の推進などに必要な予算の確保にもしっかりと取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

土木部。

【土木部長】

インフラの整備についてでございます。ふくしま復興再生道路や特定復興再生拠点を支援する公共土木施設の整備、総合的な治水対策やインフラ老朽化対策などの国土強靱化の取組を着実に進めるため、必要となる制度の構築や財源の確保について、様々な機会を捉え国への働き掛けを行ってまいります。

【鈴木副知事】

警察本部。

【警察本部】

復興に向けて歩み続ける福島を治安面から力強く支えていくため、被災地域の治安の維持及び交通の安全確保に必要な予算の確保について、引き続き要望してまいります。

また、頻発・激甚化する自然災害への備えとして、警察が求められる機能・役割を果たすため、警察用航空機のほか、緊急時の治安施設としての機能を備えた警察学校の早期建替等についても、必要な予算を要望してまいります。

【鈴木副知事】

教育庁。

【教育長】

第2期復興・創生期間におきましても、子どもたちが安心して心を動かしながら学ぶことができる教育環境づくりに向けまして、教職員の加配やスクールカウンセラーの配置の継続のほか、震災の教訓の継承など「福島ならではの」の教育を推進するために、必要な予算の確保について要望してまいります。

【鈴木副知事】

それでは知事からお願いします。

【知事】

令和4年度の政府予算要望ですが、これから、毎年継続していく予算要望は新たな局面に入ると思います。それは、風化との戦いです。

震災から10年が経過をしています。一年一年、人が代わります。先ほどおられた由良原子力災害現地対策本部副本部長や生沼福島復興局長は、我々と同レベルで福島の現状を分かっておられますが、皆さんがこれから交渉する政府サイドの方々は、皆さん必ずしも福島に理解があるわけではありませし、現状を知っているわけではありません。そういう中で、各部局からこういった予算を獲得したいといった話を聞きましたが、それを実際に形にしていくことは、これから一年一年風化が進む中で、より難しくなってきます。その時大切なことは、我々、要望する福島側がどれだけ具体的な思い、県民やその地域の思いを、県庁の部局長を始め、交渉するメンバーが心の中に持っているかだと思います。その本質が、現場主義です。

私は昨日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れました。そこには、消防車両が新たに展示されていました。津波によってねじ曲がった消防車両です。これまで、交通事故で大破した車を見てきましたが、それとは全く違う形で、この鋼鉄の車がここまでねじ曲がるのか、という有り得ないような形になっていました。一方で、双葉町長からお話を聞きましたら、そこに乗っていた方は結果として命を救うことができた、偶然助かることができた、というお話がありました。やはり、津波の怖さ、自分なりにももちろん実感しているつもりですが、これだけ強大な力が福島県の沿岸部に働いたのだなということをも1台の消防車両を見ることで、改めて実感することができます。

あるいは、先日、帰還困難区域に行き、震災後そのままになっているある方のお家の中に入りました。まず入る前に、すごく時間がかかりました。というのは、玄関が封鎖されているので、その封鎖を解かないと玄関の中に入れません。それは泥棒除けのためにやっているのではなく、イノシシなど野生鳥獣が家の中に入ってくるのを防ぐための対策です。それを一生懸命、汗をかいて外してからようやく家の中に入ります。私が靴を脱ごうとしたら、「知事、靴を脱がないでくれ、そのまま土足で上がってくれ。」と言われました。私はその方のお家に土足で入るのは非常に抵抗感があったので、靴を脱ごうとしたのですが怒られました。「もうそのままでもいいから上がってくれ」と。家の中はボロボロです。野生鳥獣の被害もありましたし、長年、屋根から入ってくる雨水、

風で中はボロボロの状態でした。ただ、2011年3月11日のまま、その痕跡が、時が、そのまま残って、止まっていました。かつ、辛かったのは、その方の寝室を拝見して、そこに一緒に暮らしておられた奥さんが途中で亡くなられているという現実もありました。そのお二方や御家族の写真、古びた写真になっていましたが、それを見て、原発事故による避難、10年間ふるさとに帰れないということがどういうことなのか、ということを改めて実感しました。

やはりこういった思いを、交渉に臨む皆さん一人一人が、それぞれのエピソードを心の中に持って臨むと、政府に、あるいは東京電力等に対して言う言葉の重みが変わると思います。県職員自身、あの当時のことを直接実感している方が徐々に減ってきています。だからこそ、現場主義を大切にして、実際に苦しんでいる地域や苦しんでおられる方々の話を生で聞いた上で、政府と交渉に臨むこと、それが第2期復興・創生期間、風化が進む政府との交渉の中で非常に重要なポイントになると思います。こういった点をぜひ心に置いて、この新しいメンバーで政府としっかり交渉し、言うべきことは言う、ならぬことはならぬ、その思いでしっかり臨んでください。

【鈴木副知事】

以上で、復興推進本部会議を閉じます。